Free+ International School

スクールガイド

代表よりごあいさつ

初めまして！ Free+ International School [FIS]（オルタナティブスクール*1／フリースクール）理事長の青沼弥幸です。

現在 FIS は、幼少部に当たる認可外保育所兼幼少教育のスクール運営と、2021 年 9 月から小学部をオープンいたしました。

私自身は、2 児の母親です。
息子は、小 1 の頃から、ぽつぽつと学校に行かなくなり、小 2 で完全な不登校となりました。理由は「学校に行く意義」が見出せなかったのです。

突然ですが、皆さんは、全国の不登校児童数をご存じでしょうか。

なんと、20 万人以上も居るんです！ *2

特にここ数年は、毎年 2 万人に迫る勢いで不登校児童が増えています。
また「コロナ」という時代背景から学校に行けない期間が長引いたこともあり、全国の不登校人数は、更に増えています。

一方で、不登校になった息子のために、彼が通える小学校の情報収集を始めた時に直面した事実は、現在の日本では、文科省管轄の「小学校」以外の選択肢が、ほとんどないということです。

もちろん、世の中には素晴らしい学校もたくさんあります。
しかし、いざ、自分の子どもを入学させたい！と思っても、立地的に通うのが難しかったり、定員がいっぱいだったり…息子が行きたい！行ける！と思える学校は見つかりませんでした。

そこで・・・
子供が「ココに通いたい！」
ご家族が「子供をココに通わせたい！」

そんな学校をつくれば、必ず、私のように学びの場に困っているご家族や子供の選択肢が増える！と確信し、FIS Grade School のオープンを決断いたしました。

とはいえ、学校を創るということは、簡単なことではありません。そして、仮にどんなに良い環境を作ったとしても、「普通の小学校」ではない、私たちのスクールへの入学を決めていただくことは、非常に難しいものです。

それは経済的な理由も、もちろんあります。しかし、それ以上に「普通の小学校」に「通わない」決断は、子共たち、そしてご家族にとっても、これまでの固定概念を打ち破り、本当に勇気の必要な決断だと思います。

・勉強は学校に通って教室の中で行うこと
・勉強は苦労・努力して習得していくもの

など、これまでの学校での当たり前でも、FIS の学びの中では、まったく異なることも多数あります。

FIS では、子どもたちの最良の学びの環境を目指していきます！
そのために、まず私たちにできることは、FIS の活動について、しっかりと皆様へお届けすることだと考えます。

・FIS はどんな学校なのか？
・FIS がどんな活動をしているのか？

ひとりでも多くの方に FIS の存在を知っていただき、この価値観に共感している方々に、この思いをお届けすることができればと思います。

子どもたちの未来のために、本当に必要な教育とは何か？
これまでの固定概念を崩し、新しい教育への一歩を、共に踏み出しましょう！

*1 オルタナティブスクールとは、一般的に、学校教育法第 1 条に定められていない従来とは異なった運営制度、教科科目などを置き、その理念や教育法に共感した子どもが通うスクールです。
*2 文科省「2019 年度児童生徒の問題行動・不登校など生徒指導上の諸課題に関する調査」2020/10/22 発表より

2021年7月31日～8月2日　FIS主催 国際巨匠絵画展（浅草橋にて）

もくじ

代表よりごあいさつ

1 学校概要
1. 教育理念
2. Mission Statement
3. Vision
4. Domain［学びの領域／発達領域］
5. Free+ International とは？
6. FIS プログラムの特徴
7. 子供たちのルール

2 カリキュラム概要
1. 学びのフレームワーク
2. 科目
3. 卒業時に目安とする学力の基準
4. 年間行事予定
5. 各教科との授業比較（学習指導要領との比較）

3 カリキュラム詳細
1. Time Table サンプル
2. Theme Activity
・Theme Activity の流れ
・Base Theme Activity［衣・食・住］
・Advanced Theme Activity［Media & ICT］

4 評価の仕組み
1. 評価の考え方
2. 導入している仕組み
3. ご家族との連携・サポート

5 カリキュラム以外の仕組み
1. 生活基盤、生活ルーティンについて
2. 大人向けトレーニングプログラム

6 スクール生活をスタートするにあたり
1. スクールでの生活について
2. 学びの準備品
3. スクールとの連絡方法
4. 情報共有の仕組み
5. 欠席・遅刻・早退について
6. 子供の健康に関する方針
7. 通学定期について
8. スクール発行の書類および家庭からの提出書類
9. 個人情報の取り扱い
10. 災害発生時の対応
11. 利用者向け保険
12. スクール運営法人

1 学校概要

1. 教育理念

《幼少部》

～子供と家族の信頼関係を通じて、子供の人間性の基礎を育みます～

●子供はこの世に生を受けた瞬間（0 歳）から、一番近くに寄り添う信頼する家族を通じて様々な学びを深め成長していきます。

子供にとって家族は最も身近で、影響を与える存在であり、家族が日々一貫した態度で子供と向き合うことは子供との「信頼関係」を深く築くことにつながります。
子供は「信頼関係」を通じて、安心感、感覚、感情、社会性などの人間性の基礎を育みます。

●一貫した教育の提供
FIS では教育の原点は「家族」にあることを前提とし、学校と家庭の一貫した教育を行います。FIS に関わる皆がチームとなって、子供の成長をサポートします。

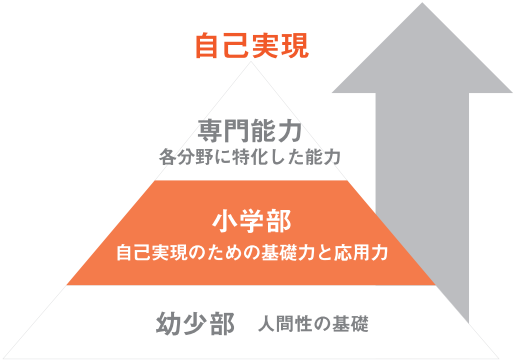
《小学部》

～子供が本来持っている力を最大限引き出していく環境を提供します～

すべての物事において「基礎」の上に「応用」が成り立ちます。

子供たちが社会で活躍し、自己実現していくために必要な「基礎力」と「応用力」を育み、子供たちが本来持っている力を最大限引き出していく環境を提供します。

学びのフィールドは「身近な社会（家族・学校・公園など）」から大きな社会へ拡大していきます。



2. Mission Statement
～子供、家族へのコミットメント～

FIS の学びの環境を通じて、子供たちが自己実現のための必要な Elements(要素) を育み､深めることにコミットしています｡そして、子供たちが学びの中で、これらを育む様子を注意深く観察していきます。

以下の要素は、FIS の学びの指針でもあり、これらを深めることにより「自己実現」のための「必要な力」を高めていきます。
子供たちへの評価（子供たちの情報を集めること）は、この要素に基づき行われます。

3. Vision

FIS の子供と関わる大人は、以下の Vision を掲げています。

- **子供たちの「存在」を 100%承認します**
- **子供たちの「本来持っている力」を 100%確信し、その力を最大限に引き出していきます**
- **常に学ぶ姿勢を持ち、自身を磨き、高めていきます**
- **家族の子供たちへの関わりを プロフェッショナルサポートします**

Elements《育む要素》

【安心感と信頼関係】 ～すべては「安心感」と「信頼関係」から始まる～
自分自身への理解、体への理解、自己管理、自分と家族の関係性・周囲との関係性などを育みます。

【考える力／行動する力】 ～自ら考え、選択・決断し、行動する力～
物事の意味合い、考える力、決断力、創造性、柔軟性、適応性、自己表現などの力を育みます。

【感情性・社会性】 ～人は感情の生き物であり、私たちは社会の中に生きている～
感情整理、感情表現、コミュニケーション、人間関係、チームワーク、実社会への適応、活動フィールドの理解と活用なども含みます。

【自由・責任・尊重】 ～『自分自身』の尊重と『他者』への尊重
『真の自由』の獲得と、それに伴う『責任』～
自己承認、他己承認、セルフリーダーシップ、リーダーシップ、目標設定、目標達成、ダイバーシティなどが含まれます。

【専門性】 ～好奇心あるものへの探究～
Theme Activity による探究とその先へ …

4. Domain [学びの領域 / 発達領域]

FIS の学びは、すべて Domain[学びの領域 / 発達領域] の上に育まれます。Domain とは、子供たちが学びを深めていく上で注視して観察していく領域のことです。この 4 つの領域は、すべてが重なり合い影響し合います。

例えば、子供たちは「身体」を使って行動します。
お友達との「関係性」は「ことば」で育み、『社会性・感情性』『ことば・認知』が関わります。更に物事を「考える力」は『知性』となります。

子どもたちの情報は、Domain に基づいた具体的なエピソードを蓄積していきます。

Domain	
身体	身体、神経、感覚（脳）、体感、五感、感覚の成長、バランス感覚、物事に身体（体感）を通じて向き合うこと
社会性 **感情性**	他者との関係性（人間関係）コミュニケーション、自己承認、他者承認、場所への理解、役割、責任、適応力 感情・情緒面：感情（気持ちの）整理、感情（気持ちの）表現
ことば・認知	言葉の理解、言葉の意味合い、発語、発話、会話、思考 物事の意味合いの理解
知性	物事に対する思考力（考える力）、論理的思考、原因と結果、判断、選択、分類など 物事に対する知識全般 数、文字、原理原則、原因結果、シンボル、生活、社会分野での知識などが含まれる

5. Free+ International とは？

「Free+」＝「真の自由」

子供たちに「真の自由」を獲得してほしい！という願いのもと、Free+ International School と命名しました。

Free = 自由という言葉は、かつて、福澤諭吉が「自らを由（ゆう）すること」つまり「自らを良しとする」(自らの選択を肯定する) という意味合いで翻訳したとのことです。

Mission Statement の Elements のひとつに「自由・責任・尊重」という項目があります。

自らが考えを持ち、自らの選択を肯定することで、社会の中でも「自由」であることを体感して欲しいと考えます。他者の評価軸ではなく、自分自身が選択・決断をし、行動した結果「自由」が獲得できるということです。

合わせて「自由」には、必ず「責任」と「尊重」が伴うことも伝えていきます。

選択に対し「責任」が伴うこと（≠放任）
自分と他者を「尊重」するからこその自由である（≠自分勝手）「自分」と「他者」を尊重し、自分自身の選択に「責任」をもち、はじめて「自由」を手にすることができるのです。

「International」の考え方

FIS では、学校名に掲げている「International」を「自身と周囲との関係性を築くこと」と定義しています。その定義の基礎は、自身の周囲にある家族・友達・学校などの身近な社会と良好な関係性を築くことにあります。

「自身と周囲との関係性を築くこと」は、身近な社会を基礎として、多様な考え方が存在する国際社会でも応用が可能です。 単に言葉が話せるだけではなく、確固たる自身の考えを持ち、周囲と調和を取った上で、自身の考えを行動に移し、自身と周囲の関係性を築いていく人材こそが、FIS の考える「International」な人材です。

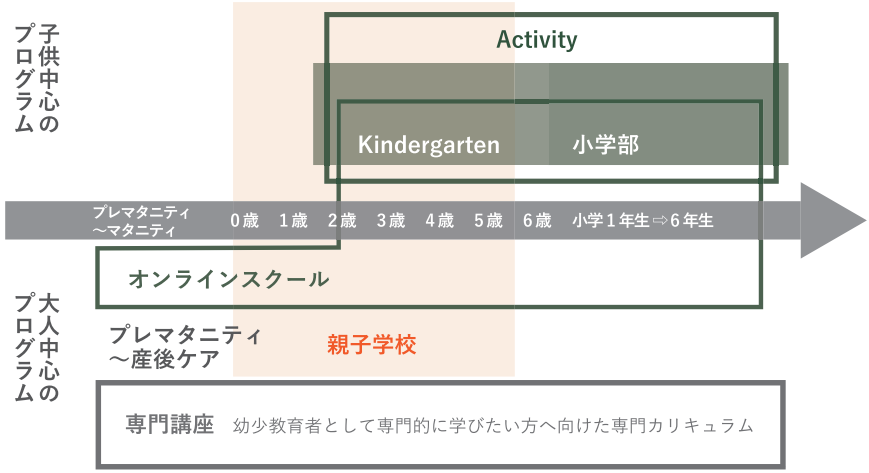
6. FIS プログラムの特徴

子供の成長に合わせたプログラムを提供しています。

1.「学校と家庭の一貫した教育」の確立
「学校」の学びを「家庭」で実践し常に一貫した対応で子供の成長をサポートしていきます。

2. 子供が学び、親が学び、先生が学ぶ
FIS では子供だけでなく、子供に関わる大人も子供の成長に合わせて学びを深めていきます。

3. リアルとオンラインの融合
「リアルスクール」と「オンラインスクール」の両方で「一貫した学びの場」を提供します。双方の良さを融合し、子供＆ご家族の成長を全面サポートしていきます。
※オンラインスクールは全国から受講可能です。



7. 子供たちのルール

「自分を認める・相手を認める・地球に優しく」

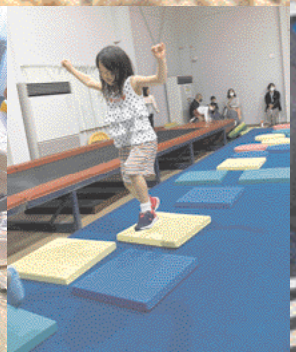
子供たちが守るルールはたったひとつ。

普段からこの意味合いと、とことん向き合い、関わる人々と周囲の関係性を通じて人間性を豊に育みます。

スクール内でのディスカッション（話し合い）でも、常にこの「考え」と「行動」が問われます。

その場において「自分を認める、相手を認める・地球に優しく」とは、どういうことか？その結果、子供たちがどんな結論（行動）を導き出すのか？

学校生活において、常に Mission Statement で掲げている自己実現のための必要な Elements（要素）が問われていきます。



保護者の声

◆小４女の子ママ
引っ込み思案な娘が、イベントの実行委員では「やりたい！」と自ら手を挙げ、積極的に関わり、オンラインミーティングでは、質問やアイデア出しに前のめりな様子を見て、静かに震えました笑。自分の考えや感覚を大切に、マイペースにその場になじみ、自分のやりたいことにエネルギーと時間を使って、全力で楽しんでいる姿がとても頼もしいです。

◆小２男の子ママ
子供の変化…通い始めてからの子供の変化として大きいのは、とにかく自信に満ちている様子です。好きなことにどんどんのめり込むようになり、やりたいことを説明する力、周りを説得する力、挑戦する力がついてきているので、「やりたい」と思ったエネルギーが途中で失速することが無く、毎日大好きなサッカーと虫とりに力一杯向かっています！
変化を一言で言うと、息子らしさが爆発的に伸びていると感じます！

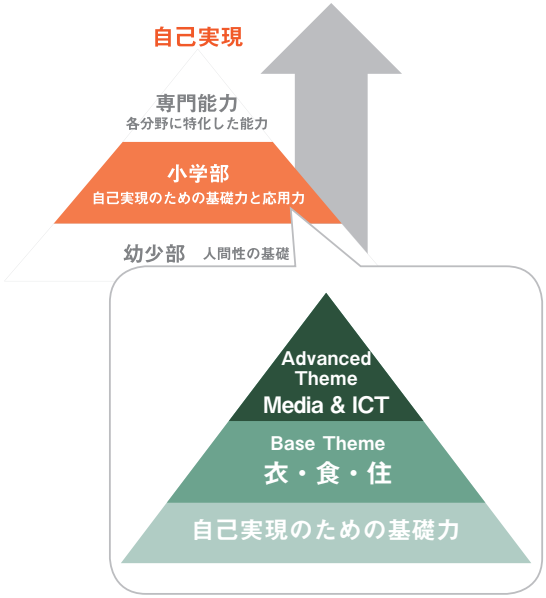
親の変化…子供がイキイキとスクールに通っている姿を見て、親自身が、FIS を選択したことに自信を持てました！
これからも何か起きても FIS と共に乗り越えていけるだろうと思えます。親の変化を一言で言うと、息子が息子らしくあることを自信をもって受け入れられるようになりました。

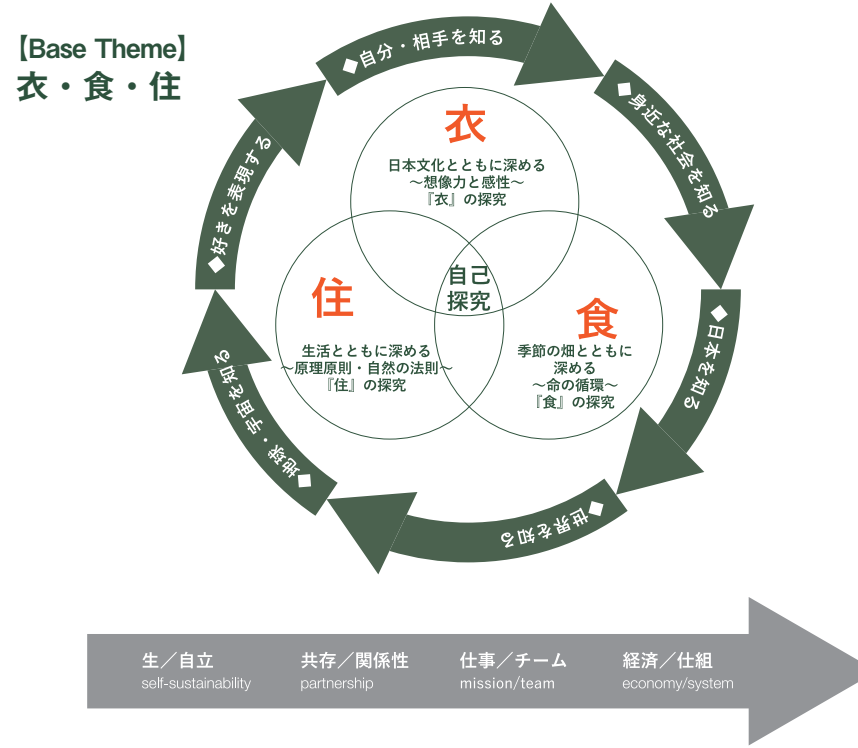
◆小３男の子ママ
FIS のカリキュラムは、子供たちが興味関心を持って取り組めるための工夫で溢れています。
テーマアクティビティ【衣食住 +Media&ICT】のカリキュラムでは、各界の専門家と組んで実施しているため、子供たちの知識・経験・選択肢の幅が圧倒的に広がっていきます！すべては、この時代を生き抜いていくための学びであることを、強く実感します。

2 カリキュラム概要

1. 学びのフレームワーク

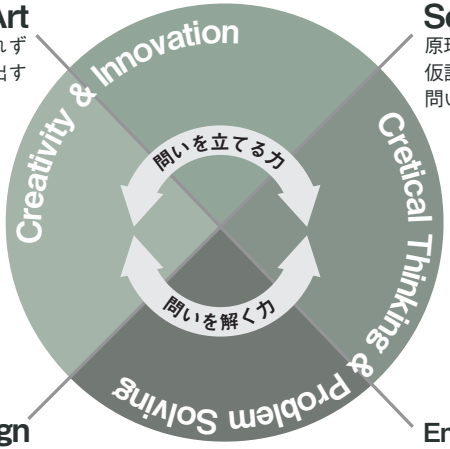
６年間のテーマアクティビティを通じて「生きること」を探究します。
私たち人間が生きていく上で欠くことのできない３つのテーマ「衣・食・住」の探究を基礎とし「今を生きる力」を培います。そして、これからの変わりゆく時代を生きる上で必要な力【Media & ICT】の分野では「未来を生きる力」の素地を培います。６年間で、これからの時代を生き抜いていくために必要な「今を生きる力」と「未来を生きる力」の双方を積み上げます。





【Advanced Theme】
Media & ICT ~FIS Society 5.0~

FIS Media & ICT で捉える先は、人間とテクノロジーが融合していく社会です。テクノロジーが単体で存在するのではなく、4 つの分野から社会へアプローチしていきます。（ここで使うフレームワークは、Neri Oxman : Krebs Cycle of Creativity の図式を参照しています。）



Art
固定概念に捉われず
新たな認識を生み出す

Art（アート）『自由に想像する力』と『想像したものを現実化する力（創造力）』、そこから生み出された子供たちの表現を 100% 承認し、可能性を広げていきます。固定概念に捉われず新たな着想を得て、社会との融合を創造します。

Science
原理原則を学び
仮説を立てる
問いを立てる

Science（科学）：子供たちは、日々生きている実社会のインプットから原理原則を学び、その学びに対して、問いを立てていきます。これは Base Theme そのものを指します。

Design
テクノロジーを
実社会でどのように
融合するかを思考する

Design（デザイン）技術は実社会に融合して、初めて意味をなします。社会の問題（問い）を解決することをデザインとし、プロジェクトアクティビティとして捉えます。実社会の問題を発見し、その問題を解決するために、どのような解決策があるのかを思考／試行していきます。【問いを解く力／Needs Driven】同時に、持っている技術を社会の問題に適応する【Seeds Driven】の考え方を学びます。（双方向性）

Engineering Technology
原則のうえに
テクノロジーを使い
新たな解決策を考える

Engineering & Technology（技術）：実社会のインプットをもとに、立てた問いを解く過程で必要な Engineering & Technology（技術）を学び、問題解決へ生かしていきます。【問いを解く力】現代社会において、技術は常に進化します。つまり、今、最新の技術を習得しても、数年後には陳腐化します。ここでは最新技術の習得を目的とするのではなく、その技術をどう習得し、どう活用していくのか？という、学び方、考え方も習得します。

今を生きる力

Base Theme Activity

日本文化と共に深める ～想像力と感性～ 衣の探究	「衣」×「伝統」×「歴史」から深める『自己の確立と自己表現』 着物への理解を深めながら、日本の伝統文化、歴史的背景への学びを深めます。そして、個性を『衣』から辿り、真の自己表現を探求します。想像力と感情を養うプロセスです。
季節の畑と共に深める ～命の循環～ 食の探究	「生きること」=「食べること」 畑の一年を通じて『食』への理解を深めます。 私たち人間は、すべて太陽からのエネルギーを基にし、それを地球が育むことにより成り立っています。 その恵に感謝しながら生きていくことを学びます。
生活と共に深める ～原理原則・自然の法則～ 住の探究	幼少部から基礎にある『生活基盤』 小学部では、安心安全なおうちを飛び出し、外の世界で生きていく力を育みます。 私たちが地球上で生きていくとはどういうことなのか？６年間を通じて、原理原則・自然の法則を学び、どんな環境下でも地球と共存し、生き抜いていくたくましさを育みます。

未来を創る力

Advanced Theme’s Skill=Advanced Elements

Mission Statement で定義する Elements に追加し「未来を生きる力」の培う要素 * は、以下です。 *P21(Partnership for 21st Century Skills) を参考にしています。

Media & ICT を含む Total Elements	育む内容
Creativity & Innovation 創造性と革新性	新規創造と、革新性を生み出すための素地を培います。ヒントの原石はすべて日常生活にあり、原理原則に基づきます。子供たちが創造したことは、すべて現実化できることを勇気付け、その積み重ねが、子供たちの Creativity & Innovation の思考につながります。
Critical Thinking & Problem Solving クリティカルシンキングと問題解決	テーマを深める過程で『問いを立てる力』と『問いを解く力』を培います。 Media & ICT は、問題解決のための一つの手段であり、日常生活の問題を解決する、もしくは、ICT 技術を日常生活に当てはめ問題を解決する両方のアプローチがあることも伝えていきます。

Base Theme と Advanced Theme をつなぐスキル

Communication & Collaboration コミュニケーションとコラボレーション	FIS Society5.0 では、Base Theme と Advanced Theme、そして人と社会の融合を目指します。 プロジェクト進行では、人が技術を活用し、人と人とがコミュニケーションを取り合いながら課題を解決していきます。 テクノロジーやスキルだけに囚われるのではなく、幅広い分野での Communication & Collaboration を意識することで、これまでの枠を超えた幅広い課題解決を目指します。

IT の基礎は Art と積木 !?

Fis Society5.0 のカリキュラムの基礎は、幼少期のアクティビティでも取り入れている Art と Big Block（木の積木）で培います。

Art では、子供たちの頭（思考）にあるものは、必ず現実化できることを徹底的に勇気づけていきます。
自分が実現したいものを、あらゆる手段から思考し、現実化することを習慣化すると、それが、ICT 技術での「問いを立てる力」と「問いを解く力」を高めていくことに繋がります。[Art & Design]

論理的思考［Logical thinking］の原点は、105 ピースの BigBlock（木の積木）から培います。
ブロックは、大きさ、形、重さの異なるピースが混在しています。ブロック遊びの過程では、それらを鑑み、頭の中の設計図と実際に作り上げる物とをコネクションし、バランスを取りながら、作品（創作物）を作り上げていきます。片付けでは、大きさを選別し、順番に、整列していかなければ箱が閉まりません。

Critical Thinking & Problem Solving の基礎となる論理的思考、そして、物事の原理原則を木のブロックから学んでいくのです。

2. 科目

FIS では、一般的な「科目」の概念とは異なりますが、以下のような区切りで学びを深めていきます。

◆日本語

第一探究言語として日本語を大切に扱っています。
日本語の授業は、以下の４項目を深めます。

- **音を溜める**：子供たちが情報（音）を溜めていくフェーズです
- **話す**：Story Time, Story Telling、Show & Tell、Presentation、Discussion を通じて話す力を育みます
- **読む**：１冊の本を読み切ることを通じて読む力を育みます
- **書く**：Creative Writing、Logical Writing、行事作文を通じて書く力を育みます

◆外国語

多言語環境での安心感をつくり、効果的に言語獲得を行うため「生活ルーティン」をベースとした言語習得アプローチを行います。英語の読み書きの習得を目的としておらず、子供たちの外国語へ対する「感性」「感度」を高め、多言語・多文化・多様性への理解・適応の素地をつくることを目的としています。

◆文字

ひらがな・カタカナ・漢字・書写（硬筆・毛筆）において、文字に特化して学びを深めていきます。合わせて文字の意味合いと、ことばとの繋がりも深めていきます。

◆算数

「どんぐり算数」を導入しています。
糸山泰造氏が独自に開発された算数文章問題を継続的に解いていくことで人生を楽しむための「考える力」を身につける「無理なく無駄なく効果的な学習方法」です。子どもが自分なりの絵図を描きながら答えを導きだすことを目的とするのが特徴です。「考える力」の育成には問題を解く過程が重要であり、問題の答えが出なくても、出した答えが間違っていてもよしとします。問題を解こうとする子どもを傍の大人は口を出さずに見守ります。週に２コマ（文章題２問）取り組みます。

◆体育（古武術）

毎日、体育（身体を育む時間）を設けており、その基礎には古武術の考え方を導入しています。
トレーニングをして、筋力を高めていくようなものとは異なり、自分自身の体と向き合い、体が潜在的に持っている特性に磨きをかけていくものです。

体育の授業の考え方については、こちらをご参照ください。
https://note.com/free_is/m/m83548c63798e

◆身体

人は自分自身の身体がなければ存在することはできません。
そのため、FIS では自分自身の身体と向き合うこと（自分の身体への理解を深めること）を、非常に大切にしています。自分自身の身体はどうなっているのか？また、自分自身は何者なのか？自分自身の身体と向き合う時間を通じて、自分自身への理解を深め、他者との違いも理解していきます。
性教育の学びへもつながります。

◆音楽

日常的に音楽を取り入れることはもちろんですが、定期的に音楽スタジオを借りての授業も行います。本物を感じること、そして、音を通じて他者とつながることを目的とします。Body Parts をはじめ

高学年ではドラム・各種パーカッション（打楽器）・ギター・ベース（弦楽器）・ピアノ・キーボード（鍵盤楽器）・ハーモニカなど取り扱います。

◆アート

子どもたちの誰もが持っている『自由に想像する力』と『想像したものを現実化する力（創造力）』を最大限に発揮していく環境＆時間を提供します。

アートクラスの目的等については、こちらをご参照ください。
https://free-is.org/grade/programs/art/

◆テーマ学習

Base Theme【衣・食・住】～生きることの探究～
子供たちが今を生き抜いていくために必要な変わらない力＝「生きること」を、【衣・食・住】のテーマを通じて探究していきます。

Advanced Theme【Media & ICT】～未来を生きる力～
テーマアクティビティで培う「変わらない生きる力」の土台の上に培われる、「未来を生きる力」を Media & ICT の分野を中心に探究していきます。

※生活、理科、社会に該当する科目は、テーマ学習に含まれます。

◆個別学習

５年生以降は、タブレットを使った個別学習の時間を設けていきます。

3. 卒業時に目安とする学力の基準

基本的には、文部科学省の学習指導要項に記載されている小学校６年間で終える学習内容について網羅いたします。
一般的な学力の目安として、子供たち本人が望めば、以下の資格取得のサポートもいたします。
ただし、これはあくまで本人たちの決断であり、資格取得を強制するものではありません。

- 算数検定７級程度
- 漢字検定６級程度
- 硬筆書写技能検定６級程度
- 毛筆書写技能検定６級程度

4. 年間行事予定

年間行事としては以下のような行事を想定しています。
※変更の可能性もありますので詳細は、スクールカレンダーをご参照ください

4 月：スタッフ研修、新入生受け入れ
5 月：比べない体育祭
6 月：キャンプ
7 月：夏休み、保護者面談
8 月：夏合宿、スタッフ研修
9 月：新学期、新入生受け入れ
10 月：キャンプ
11 月：遠足山歩き、FIS Festival
12 月：遠足山歩き、Winter Party、冬休み
NPO 総会、冬合宿
1 月：新年、遠足山歩き
2 月：遠足山歩き
3 月：春休み＆春合宿、保護者面談

◆行事説明

プレゼンテーション（テーマ学習・プロジェクト）
各テーマアクティビティごとに、子供たちのプレゼンテーションの時間を設けます。ご家族の見学が可能です。

保護者面談
半期に 1 度、個別面談を行います。
【参考】P34-35 ご家族向け面談＆コーチング

保護者会
隔月 1 回程度スクール解放日を設けています。是非お気軽にスクールにお立ち寄りください。また、長期休み前に全体保護者会を開催いたします。オンラインの会合も行っております。

スタッフ研修日
長期休みごとにスタッフ研修日があります。
保護者の皆様へ公開している研修プログラムもあります。
【参考】P35 大人向け Training Program

NPO 総会
年 1 回、毎年 12 月に開催します。

郊外学習
神奈川県二宮町の畑学習、船橋市のふもつふさ学舎での和綿栽培などを中心とし、毎週水曜日は郊外学習を開催します。また、毎日のプログラムでも、公園や学校周辺での郊外活動を積極的に行っていきます。

宿泊学習
春、夏、冬の長期休暇中は、提携先にて季節ごとに合宿を行います。（任意参加）また、通常プログラムの中でも、テーマ学習に合わせて、2～3ヶ月に 1 回程度の 1 泊 2 日程度の宿泊学習を行います。

5. 各教科との授業数比較(学習指導要領との比較)

右ページは文部科学省「学校教育法施行規則別表第 1（第 51 条関係）」各教科等の授業時数とＦＩＳの授業時間数の比較です。一部、ＦＩＳの時間数が足りない部分がありますが、すべてを教科ごとに区切ることは難しく、総合的な学習や、特別活動に該当する部分で取り扱っている場合もあります。
各教科等の授業時数　学校教育法施行規則別表第 1 （第 51 条関係）

◆小学校学習指導要領と FIS 授業時間の比較

	1st Grade		2nd Grade		3rd Grade		4th Grade		5th Grade		6th Grade	
区分	FIS	文	FIS	文	FIS	文	FIS	文	FIS	文	FIS	文
	（前半／後半）											
国語	42 ／ 216	306	209	315	209	245	209	245	209	175	209	175
算数	52 ／ 132	136	152	175	152	175	152	175	152	175	152	175
社会					104	70	104	90	104	100	104	105
理科					104	90	104	105	104	105	104	105
生活	30 ／ 156	102	209	105								
音楽	6 ／ 27	68	30	70	30	60	30	60	30	50	30	50
図画工作	30 ／ 60	68	78	70	78	60	78	60	78	50	78	50
家庭										60		55
体育	54 ／ 108	102	228	105	228	105	228	105	228	90	228	90
道徳	12 ／ 24	34	38	35	38	35	38	35	38	35	38	35
外国語活動	6 ／ 12		57		57		57		57	35	57	35
総合的な学習	18 ／ 45		141		141	70	141	70	141	70	141	70
特別活動	12 ／ 24	34	38	35	38	35	38	35	38	35	38	35
総授業時数	262 ／ 804	850	1180	910	1179	945	1179	980	1179	980	1179	980
総時間	196.5 ／ 603	637.5	885	682.5	884.25	708.75	884.25	735	884.25	735	884.25	735

※１コマ =45m で換算しています

※１年生前半は入学から４ヶ月間の時間数を指します（入学４ヶ月間は、学校生活に慣れるためのカリキュラムです）

※長期休暇中プログラム、アフタースクールでの取り組みは含まれていません

※教科は文科省管轄の教科に振り分けて換算しています（例：１、２年生：理科社会の内容→生活へ換算など）

※テーマアクティビティは総合的な学習の時間に含めています

※毎年子供たちの状況に合わせながらカリキュラムを微調整しますので、時間数も前後する可能性があります。

3 カリキュラム詳細

1. Time Table サンプル

◆1 年生 Time Table サンプル【前半（４ヶ月)】

開始時間	終了時間	Mon. Tue. Wed. Thu. Fri.
8:30	9:10	Morning Job & Free Time ・朝のお仕事（１日の準備） ・自由時間：自分の好きな時間を過ごす
9:10	9:15	Goodmorning & Songs（朝の歌＆朝の挨拶）
9:15	9:20	Attendance（出席確認／人数確認（数の概念)）
9:20	9:30	Circle Time（カレンダー（曜日・日付・月・数）／天気）
9:30	9:40	Show and Tell（プレゼンテーション）
9:40	9:50	Story Time（今日のストーリー）
9:50	10:00	Toilet
10:00	10:05	Parkprep Lineup
10:05	10:15	Transition Go Park ／ Line up
10:15	11:00	Park（屋外活動）
11:00	11:05	Park Clean Up
11:05	11:15	Transition Go Home
11:15	11:20	Toilet & Wash Hands
11:20	11:25	Lunch Prep
11:25	11:50	Lunch
11:50	12:00	Lunch Clean Up
12:00	12:40	Theme（各曜日ごとに違ったテーマ）
12:40	12:45	Clean Up
12:45	12:55	News Time（1 日の振り返り）
12:55	12:56	Goodbye Song
12:56	13:06	Go Home Job

◆1 年生 Time Table サンプル【後半】

開始時間	終了時間	Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.
8:30	9:10	Morning Job & Free Time				
9:10	9:50	1. Goodmorning & Songs 2. Atendance 3. Calender 4. Weather 5. Show & Tell 6. Story Time				
9:50	10:00	Transition				
10:00	11:00	Park	Park	Theme	Park	Park
11:00	11:15	Transition				
11:15	11:25	Lunch Prep				
11:25	11:50	Lunch				
11:50	12:00	Transition				
12:00	12:40	Block	Kitchen	Theme	Choice	Art
12:40	12:50	News Time				
12:50	13:10	Free & Toilet				
13:10	14:00	身体	Math	Theme	IT	English

◆1年生の Time Table 前期について

1年生前半（4ヶ月）は、スクールに慣れることを最優先の目標としているため Time Table（時間割）は幼少部の流れと同一です。

Morning Center(朝の会) では、小学1年生の算数、及び、生活の授業で取り扱う6～7割程度の内容を、日常生活の中で自然と習得できる流れになっています。午後のテーマアクティビティプログラムでは、算数、国語、生活に加え、上級生に進んでいく上で必要となってくる、IT、家庭科、図画工作の基礎を固めていきます。

2～3年生 文字の授業 漢和辞典で漢字を調べる

◆2年生以降 Time Table サンプル

開始時間	終了時間	Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.
8:30	9:00	1. Goodmorning & Songs 2.Atendance 3.Calender 4.Weather, News Paper 5. Hearing & Reading 6. Show & Tell 7. Triangle Numbers 8. 文字・漢字				
9:00	9:10	Toilet				
9:10	10:10	Park	Park	Theme	Park	Park
10:10	10:20	Transition				
10:20	11:20	Self Study	文字 日本語	Theme	Math	Meeting Communication
11:20	11:25	Lunch Prep				
11:25	11:50	Lunch				
11:50	12:00	Transition				
12:00	13:00	日本語 Communication	Theme	Theme Communication	Theme	Art
13:00	13:10	Break				
13:10	14:10	身体	Math	English	IT	English
14:10	14:20	Refrection				
14:20	14:30	Clean UP				
14:30	14:00	Transition & Go Home Job				

2. Theme Activity

・Theme Activity の流れ

テーマアクティビティは、子供たちが興味関心を持って物事を探究できるように、以下のフレームワークに基づいて設計されています。

テーマアクティビティの流れ

I. 体感する・感覚を溜める
II. 概念を作る［知る・わかる・探究する］
III. 習得する［できる・アウトプットする］
IV. 広げる［応用する］
V. 創り出す
自らのテーマ設定▶テーマ学習
［更なる探究・問題解決・プロジェクト］
VI. 卒業制作［分かち合う］

ひとつのテーマを流していくのではなく、日常の様々な要素が絡み合い、子供たちの概念形成を手助けしていきます。ここでは**［2〜3年生の Base Theme：衣］**を例としてご紹介します。

I. 体感する・感覚を溜める
FIS の特徴的なフェーズとなります。すべての物事は「感覚を溜める」ステップからスタートします。子供たちは鋭い感性をもち、日常生活から様々な情報をキャッチしています。その感度を最大限に発揮し、まずは体感、あらゆる情報を身体に溜めていきます。その情報が充分に満たされた状態で、初めて知識との接続を行なっていきます。

・私たちの衣服がどのように作り出されているのか？
・衣服の成り立ちには、どのような背景があるのか？

［浴衣の探究］

浴衣の体感：実際に浴衣に触れ、浴衣を着てみます

［浴衣の素材「綿」の探究］

綿花の畑を実際に訪れ、触れ、「綿」というものに触れていきます

II. 概念を作る［知る・わかる・探究する］
たくさんの感覚を溜めた子供達の中にある「感覚」と「物事の概念（意味合い）」を結びつけていきます。子供たちは、もともとすべてを感じています。その感じた物事を体系立てた知識として情報を整理していくプロセスが概念を作るフェーズです。
なんとなく体感してきた経験から、概念（物事の意味合い）を構築し、実社会と近づけ、裏付けある概念を育んでいきます。

書籍からの学び

綿はどんな過程を経て布になっていくのか？実際の体験から物事の概念を構築していきます

III. 習得する [できる・アウトプットする]
子供たちは、概念を作りながら、物事の意味合いを捉え、様々な形で知っていることをアウトプットしてくれます。そのため FIS では、概念形成をすることと並行して、子供たちにアウトプットのチャンスをできる限り多く提供していきます。子供たちのアウトプットからは子供たちの理解度や習熟度（何がわかっていて、何がどう繋がっているのか？）などの情報を収集することができます。その観察をもとに、さらに子供たちの学びを深めていきます。

・どんなことに興味関心を持っているのか？
・どんなことを理解しているのか？どんな発展性があるのか？
子供たちのアウトプットから、IV. 応用への架け橋をかけていきます。

着物と洋服の違い、浴衣の丈が合わなくなったら？浴衣は何でできている？

気づいたことや学んだことを観察を通してスケッチブックにまとめていきます

IV. 広げる [応用する]
基礎が培われた後に、その知識を広げる [応用する] フェーズです。

・これまでに作った概念に＋αの情報を付加していきます。
子供たちの概念がより豊かになっていきます。

V. 創り出す
広げた概念と知識を持って、更なる探究を行います。
自らでテーマ設定をし、そのテーマについての学びを深め、自ら問題・課題解決をしていきます。学年を上げていくごとに、自らがアレンジしていく思考の領域を広げていきます。

これまでの学びをもって、かつ固定概念にとらわれず、子供たちの世界観を勇気づけていきます。

VI. 卒業制作・研究
6 年生は、卒業制作・卒業研究に入ります。
これまで学びを深めてきたことについて、子供自身が『好き』と捉える分野を自ら選択し『自分の好きを表現』します。

Base
Theme
Activity

衣

	①自分を知る・相手を知る	②身近な世界を知る	
	1st Grade [6-7yr]	2nd Grade [7-8yr]	3rd Grade [8-9yr]
	【体感する／溜める】 ・浴衣の体感 ・着物の体感 着物と浴衣の違いを知る ・藍染 ・綿／和綿の体感 綿生地の成り立ちをイメージする	**【成り立ちを深める】** （素材：綿／染め） ・着る（浴衣） ・着物の体感 ・綿（和綿）への理解 綿花の栽培▶糸紡ぎ▶生地を織る ・藍の栽培 ・生藍染／藍染	**【着物の世界を広げる】** ・日常化／習慣化（浴衣） ・着物の体感（着る） ・絹への理解 絹のイメージ（養蚕農家見学） ・裁縫（手縫い） 綿生地を染める 綿の小物づくり ・様々な染色技法を知る
前期［4〜8月］	Theme Activity への導入 **【体感】** ・浴衣を知る **【Book】** ・情報を溜める	**【体感】** ・着物の体感 ・生藍の栽培 **【概念をつくる】** ・藍の観察 ・着物の概念をつくる ・浴衣を着る **【Book】** ・情報を収集する	**【体感】** ・綿の栽培 ・墨流し ・手縫い **【概念をつくる】** ・着物を着る ・着物の概念をつくる （着物と共にあるもの） ・綿の観察 ・綿への理解：綿花の栽培〜糸紡ぎ
後期［9〜3月］	**【体感】** ・着物と浴衣の違いを知る ・身近な着物の体感 ・藍染体験 ・綿の体感：綿布の成り立ちのイメージ （綿の収穫▶糸紡ぎ） **【Book】** ・情報を溜める	**【体感】** ・着物の体感 ・生藍の栽培と収穫▶生藍染 **【概念をつくる】** ・藍染 ・浴衣を着る **【Book】** ・情報収集	

③日本を知る	④世界を知る	⑤地球・宇宙を知る ⑥自分の好きを表現
4th Grade [9-10yr]	**5th Grade** [10-11yr]	**6th Grade** [11-12yr]
【意味合いを深め、着る】 ・着る（着物） ・絹への理解 蚕飼育▶糸紡ぎ▶布を織る▶創作 ・様々な染色技法を知る ・裁縫（ミシン縫い） 手ぬぐい型染め▶手ぬぐいを使ったアイテム（エプロン、洋服など） **【体感】** ・蚕の飼育 ・絹素材の体感：絹の成り立ちのイメージ ・ミシンでアイテムをつくる **【概念をつくる】** ・蚕の飼育 ・綿地への理解：織り▶染め▶小物制作 **【創り出す】** ・イベントの運営 （各部門の担当とサポート）	**【巡る日本と世界】** ・着る（着物） ・世界の衣服 ・着物の起源 ・衣服の起源 ・その他の布素材 麻、芭蕉、葛、紙、竹など ・和裁のための前準備 ※下級生（4 年生）の着付けサポート **【体感】** ・絹素材の理解：蚕▶糸紡ぎ▶布の成り立ち ・自分を表現すること **【習得する】** ・蚕の飼育 ・綿地への理解：織り▶染め▶小物制作 **【広げる】** ・着物を着る ・世界の衣服 ・世界から見た日本／世界とのつながり ・現代の多種多様な素材／未来の素材 ・着物のより広い世界を知る **【創り出す】** ・イベントの運営 ・卒業制作に向けた準備 ・自分自身での探究テーマの設定と探究	**【卒業制作：自己表現】** ・自己確立＆卒業制作 ・浴衣の制作 ※下級生の着付けサポート **【卒業制作】**

Base
Theme
Activity

食

	畑の大きな流れ	1st Grade	2nd & 3rd Grade
April	収穫 畑づくり 春の種まき＆苗植	【体感】 ・畑での自然遊びと季節の農作業 ・季節の体感 【Book】 ・情報を溜める	【概念をつくる】 ・畑での自然遊びと季節の農作業 ・季節を体感する ・収穫した野菜でごはん作り ・季節のおやつ作り ・食の Story をイメージする 【Book】 ・情報収集
May June	畑づくり＆夏野菜仕込み 梅仕事		
July	麦の収穫▶乾燥 畑づくり		
August	秋野菜仕込み＆収穫		
		夏休み	
September	畑づくり 冬野菜仕込み＆収穫	【体感】 ・畑での自然遊びと季節の農作業 ・季節の体感 ・簡単おやつ作り（月１回） 【Book】 ・情報を溜める	【概念をつくる】 ・畑での自然遊びと季節の農作業 ・季節の体感 ・収穫した野菜でごはん作り ・季節のおやつ作り ・食の Story をイメージする ・自分の身体と食べ物の関係性 【Book】 ・情報収集
October	▼		
November	▼		
December	▼ 麦の種まき 冬野菜収穫、芋掘り 春野菜仕込み＆植替え 麦ふみ		
		冬休み	
January	収穫	【体感】 ・畑での自然遊びと季節の農作業 ・季節の体感 ・簡単おやつづくり（月１回） 【Book】 ・情報を溜める	【概念をつくる】 ・畑での自然遊びと季節の農作業 ・季節の体感 ・収穫した野菜でのごはん作り ・季節のおやつ作り ・自分の身体と食べ物の関係性
February	春野菜仕込み＆収穫 味噌づくり		
March	たんぽぽ収穫 畑づくり 春野菜仕込み＆収穫		

生／自立
self-sustainability

共存／関係性
partnership

4th & 5th Grade	6th Grade
【習得～広げる】 ・季節の農作業 ・収穫した野菜でごはん作り（メニューの創作） ・季節のおやつ作り ・食文化と歴史 ・世界の食卓	**【卒業研究】** 自分の好きを表現する
夏休み	
【習得～広げる】 ・季節の農作業 ・収穫した野菜でごはん作り（メニューの創作） ・季節のおやつ作り ・食文化と歴史 ・世界の食卓 **【創り出す】** ・イベント運営	**【卒業研究】** 自分の好きを表現する
冬休み	
【創り出す】 ・卒業研究に向けた準備 ・自分自身で探求テーマの設定と研究	

仕事／チーム mission・team　　**経済／仕組** economy・system

「食べること＝生きること」

食は私たちの身体そのものを支えています。私たちの身体は、食べたもので作られています。そのため、子供たちの「食」への学びは、出来る限り身体に負担が少なく、自然なものを紹介していきたいと考えています。
提携農家「ぽんぽこファーム」（神奈川県二宮町）は、「微生物ネットワーク農法」という農法を実践され、無肥料無農薬でお野菜を育てています。ここは、農家なのにFISの教育理念とまるで一致する考え方・価値観を持っていらっしゃる不思議な農家です。
FISでは「子供たちが持っている能力を最大限に引き出す環境を提供する」と理念を掲げていますが、ぽんぽこファームでは、土作り（野菜が育つ環境）に最も重きを置いています。畑には水もあげないんです！野菜たちの育つ力を信じ、余計なことはせず、ひたすら待つ。
ただ、そのために、野菜たちがしっかりと根をはれるような土壌を微生物と共に育てています。
FISもまったく同じです。子供たちには必ず「育つ力」「生きる力」があると信じ、その子供たちに関わる大人は寄り添うだけ。決して、甘やかしたり、抑圧したり、強制したりするのではなく、その子供たちの生きる力を信じて、待つのみ。
FISでは、そんな素敵な農家の環境を使わせていただいています。

◆畑の装備
・軍手（ゴム製園芸用のもの）・長袖、長ズボン・帽子
・必要に応じてスコップやカマ（現地で借りられます）

Base
Theme
Activity

住

April	春休み
May	GW キャンプ／防災
June	海
July August	夏休み 夏合宿
September	海
October	キャンプ／防災 海
November	遠足山歩き FIS 祭り
December	遠足山歩き
January	冬休み 冬合宿
February	遠足山歩き 遠足山歩き
March	春休み 春合宿

「住＝生きる力」

私たちの普段の生活には便利なものが溢れており、電気、水道、ガス、生活インフラが整っていない生活など、なかなか考え難いのが現状です。

しかし、仮に子供たちが、そんなナイナイ生活を楽しめる術を知っていれば、ピンチをチャンスとして捉えるメンタリティを持つことができます。

長期休暇の「はじめ塾」の合宿では、薪で火を起こすことが生活のルーティンであり、ぽんぽこファームのキャンプでは、電気も、水道も、ガスも通っていない畑で一晩を明かします。

遠足の山歩きでは、自分の感性・感覚と、仲間を信じ、最低限のアイテムと共に野生の山を歩き切ります。

しかし、これらは子供たちにとっては、ピンチでも何でもなく、ただ単純に楽しい、チャレンジングな経験でしかありません。

これらの経験の中で育まれる『生きる力』は、例え災害があったときにもピンチを乗り越える糧となり、窮地に追い込まれた時の判断力、決断力にもつながります。

子供たちの無限の感性を【住】のプログラムを通じて開花させていきます。

◆長期休暇期間：合宿
長期休暇期間中は、提携先「はじめ塾」の合宿に参加します。
合宿中の生活では３食釜で米を炊き、風呂も薪で沸かします。日常生活を送る上で必要な仕事を合宿に参加する子供たち全員で役割分担をして、日々の生活を送っていきます。何もないけれど、すべてがある環境で「生きること」の本当の意味合いを、日常生活の流れから学んでいきます。この環境下だからこその体験をたくさん積んできます。
FIS の普段の生活では、少人数生で一人一人と丁寧に接していくことを大切にしていますが、長期休暇中の合宿では、価値観を共にする様々な年代の子供たち（小１～大学生）の中で生活を送ります。

【はじめ塾】https://hajimejyuku.jp/74195/ 合宿 /

◆遠足：山歩き【冬季プログラム：11 月～４月】
大磯の湘南平の里山にて遠足（山・藪歩き）を行います。
人によって作られた道を歩くのではなく、限りなく人手の入っていない自然の中で自分たちがどう振る舞っていくのか？自然と共に在るということはどういうことなのかを体感していきます。

《遠足時の持ち物》
遠足時はできる限り荷物を軽くして登ります。

・リュック（腰ベルト付）・靴（ジャストサイズの滑りにくいもの）
・長袖、長ズボン・帽子（紐付き）・軍手（すべり止付）・タオル
・お弁当（食べやすいもの）、水筒、おやつ・虫除け・防寒（寒い時期のみ）

【注意事項】
・虫やダニに刺される可能性があります
自然の中で遠足後は必ず洋服と身体を清潔にするなど、ご家庭でのケアをお願いいたします。
・衣服洗濯時に匂いの強い柔軟剤を使わない
匂いが強いと蜂などを刺激し、刺される可能性がありますので、匂いが強い衣服は着ないでください。
・食生活を整える
普段の食生活で化学調味料や、添加物を多く摂取している人がマダニに刺される傾向にあるようです。普段からの食生活も、できる限り自然なものを摂取するよう意識していきましょう。食事指導なども別途行っております。ご興味ある方は、お気軽にご相談ください。

◆海【夏季プログラム：７月～ 10 月】
夏は海遊びを行います。子供たちは、海で、安全に楽しく遊ぶ術を学びます。高学年になると、海を通じて環境問題への理解も深めていきます。必要に応じて、ウエットスーツや、ライフジャケットなども使用いたします。

◆キャンプ
長期休暇中の合宿では日常生活を送ること（流れ）にフォーカスしていますが、キャンプでは生活に対するプランニングにフォーカスします。普段送っている自分たちの生活（ルーティン）を分解し、どんな要素が含まれ、どのようなプランニングと実践が必要なのか。事前のプランニングから、１日の生活を自分たちの力で送ることを目的とします。また、キャンプ生活には災害被災時に役立つ技術がたくさんあります。災害時への備えについても合わせて学んでいきます。

Advanced
Theme
Activity

Media & ICT

～ FIS Society5.0 ～

		①自分を知る・相手を知る			②身近な世界を知る	
		Kinder	1st Grade [6-7yr] 《前期》 《後期》		2nd Grade [7-8yr] 《前期》 《後期》	
ART		Art Program				
SCIENCE			FIS Base Theme			
ENGINEERING TECHNOLOGY	IT リテラシー（基礎スキル） ※ iPad 利用	Online School		・iPad 導入 ・Schedule Management ・連絡手段＆課題提出方法	・iPad 基本操作 ・写真撮影＆動画撮影 ・お絵描き	・各種データ記録など ・他教科への利用 ・各種ソフトウェア
	Hardware（ハード）	・Big Block ・Wafflr Block	・Big Block/Wafflr Block ・Lego			
	Software（ソフト）					・Little Bits
DESIGN	Project（実社会との融合）		・自分を知る / 相手を知る ・I'm Special, You're Special	・家族と我が家 ・My Special family & home	・公園探検！ ・Our home ground is Amanuma Ko-en!!	・身近な町探検！ ・We love Funabashi!!
	Self-expression（自己表現）	・Show & Tell ・FIS Festa	・Show & Tell ・Kid's Teacher Class ・FIS Festa			・What's Presentation?

生／自立
self-sustainability

共存／関係性
partnership

			③日本を知る		④世界を知る	⑤自分の好きを表現する
	3rd Grade [8-9yr] 《前期》	《後期》	4th Grade [9-10yr] 《前期》	《後期》	5th Grade [10-11yr] 《通年》	6th Grade [11-12yr] 《通年》
			・各種教科での活用＆応用 ・各種好きの実現へ向けたリテラシーの獲得		・MacBook	
			・Arduino		・好きを探究する	**卒業研究** ～自分の好きを表現～
	・Little Bits Cloud Bits	・Little Bits	・Little Bits Cloud Bits	・プログラミング		
	・未来のFISを創ってみよう！ ・Let's make the ideal FIS with Little Bits	・社会の問題解決 （実社会との融合） ・介護施設訪問		・日本を知る ・ICT のビジネスへの活用	・実社会での選択 ・ICT のビジネス実践	
	・School Introduction movie	・Presentation	・Presentation ・SNS の活用、情報の公開	・SNS の活用、情報公開、倫理観	・自己の確立と自己表現	

仕事／チーム mission・team　　**経済／仕組** economy・system

4 評価の仕組み

1. 評価の考え方

FIS では日々の学びを通じて子供たちの情報を集めています。集めた情報から Mission Statement（P9）の Elements に基づき、子供たちの評価（＝子供たちのことを知るための作業）を行います。

2. 導入している仕組み

Story Park [ドキュメンテーションシステム]

普段の子供たちの成長と学びの記録、スクールと家庭のコミュニケーションをとるために Story Park [ドキュメンテーション用の仕組み] を導入しています。

Story Park では、学びのストーリー（写真や映像、コメント）を簡単に保管することができ、学校と各家庭が個人単位で情報をタイムリーにシェアすることができます。子供たちの学びのストーリーを親が知ることによって、子供の学びについての理解が深まり、ご家庭でのサポートもしやすくなります。

レポートごとに Mission Statement（P9）、Domain（P10）など、FIS 独自の [Learning Tags] を設定しており、年間通じて学びのエピソードをベースに子供たちの情報を集めています。子供たちへは、半期ごとに評価（Story Park のレポートを分析）し、その内容をもって、ご家族向け面談＆コーチングを行います。

※ Story Park の詳細は、別紙「ストーリーパーク」導入のご案内をご覧ください。

3. ご家族との連携・サポート

FIS では、子供・家族・学校がチームとなって、子供たちの成長をサポートしていきます。そのため、ご家族向けに定期的（半期に 1 度）の「個別ご家族面談」と、ご希望者向けに「ご家族向けコーチング」の時間を設けています。子供との面談の時間は、ご家族向け面談とは別に設けます。

◆ご家族向け面談

子供たちの学校での様子や、成長、次の期へ向けた課題等、ご家族ごとに、Story Park のレポートを参照しながら半期を振り返る面談を行います。
ご家族の状況や、ご家族が抱えていらっしゃる問題等もあれば、この場でシェアください。もちろん、面談時のタイミングでなくてもご相談ごとや、シェアはいつでも大歓迎です！
※状況によりオンラインで実施する場合もあります。

面談では、以下のような内容をお話しさせていただきます。

- Elements のどの要素が伸びているのか？
- 現在の課題はどこにあるのか？
- これからどの要素を伸ばしていくのか？
- 伸ばしていくためのアプローチは？

ご家族と共に現在地の把握と理想状態の確認、そして理想までのステップを明確化していきます。
※ご家族の問題として、より深く問題解決へ入っていく場合には、別途ご家族向けコーチング（別料金）をオススメしております。

◆ご家族向けコーチング

学期に一度の面談だけではなく、継続したサポートをご希望の方向けのサービスです。
子供とご家族全体の関係性や理想の家族像を実現するための、それぞれのご家族に合った具体的なアクションの実践までをサポートしていきます。
完全プライベート・セッションのため、お時間の使い方は、ご家族それぞれの課題に合わせて設定させていただくことが可能です。
※オンラインセッションでのご提供も可能です。
※料金は別途料金表をご覧ください。

5 カリキュラム以外の仕組み

1. 生活基盤：生活ルーティンについて

FIS では、幼少部から継続して、子供と家族の生活ルーティンについて、何よりも大切に取り扱っています。学校での１日の流れを整えることはもちろんですが、ご家庭での生活は学校での生活に大きな影響を与えます。そのため、ご家庭内での生活ルーティンついても助言させていただくことがあります。

2. 大人向けトレーニングプログラム

FIS では、子供たちだけでなく、子供たちに関わる大人（教師、保護者）も「常に学ぶ姿勢を持ち、自身を磨き、高めていくこと」を Mission として掲げています。そのため、FIS では以下のようなトレーニングを定期開催し、子供たちに関わる大人の「質」を高めています。
Basic Training, Advanced Training は、保護者、及び一般に子供たちに関わる大人向けに公開をしています。なお、保護者の方々は、以下３つのトレーニングは必須でご受講をお願いしております。
※一部有料のトレーニングもあります

①ＦＩＳの教育理念、教育方針の共有
②子供と家族の生活ルーティン
③子供の観察

6 スクール生活をスタートするにあたり

1. スクールでの生活について

月曜日～金曜日
- 1 年生　　8：20 ～ 14：00
- 2 ～ 3 年生　8：20 ～ 14：00
- 4 ～ 6 年生　8：20 ～ 14：30

After School（月～金）
- 1 ～ 6 年生　授業終了後～ 16：30

◆スクールでの活動時間

- 上記は目安時間で活動によって前後する場合があります。
- 帰宅時間は子供と日々確認をしてください。
- 校内外での学習・活動や行事で必要な場合、事前に子供と保護者に予定を告知した上で、終業時間を超える場合があります。
- 週末や祝日にプレゼンテーションやスクール行事、保護者会等が開催されることがあります。（子どもたちが週末に登校する場合は基本的に平日に振替休日を設けます）

◆ After School プログラムについて

スクール終了後のプログラムです。別途ご契約が必要となります。
- 時間：スクール終了後～ 16：30
- 利用日：週 1 回～利用可能
- 場所：スクール内、もしくは提携施設
- 利用料：別途提示（割引あり）

※スクール外活動の場合は帰宅時間が前後する場合があります
※スケジュールは別途提示します

◆持ち物について

自分の持ち物は自身で責任をもって管理します。スクールでは子供たちが持ってきた物に対する紛失や破損等の責任を負いません。また、スクール活動において妨げになると判断される場合はスタッフがお預かりすることがあります。

◆服装について

常に動きやすく汚れてもよい服や靴で通学してください。体育やアート、書道等、基本的にどの活動も通学服で行います。夏は体育などで汗をかくので、毎日着替えをお持ちいただくことをお勧めします。また、スクールに着替えを置いておくことも可能です。

◆昼食・おやつについて

弁当と水筒、おやつを持参することを基本とします。食事やおやつは子供達の身体を作っていきますので、できる限り体に良いものをお選びください。

※おやつは特定の課題へ取り組む時、After School に参加する場合のみ食べることが可能です

◆校外活動について

外出することが多くあります。その際は、メールや Story Park 等により保護者の方々にもお知らせしますが、先回りせず、子供たち自身が自律的に行動できるようサポートをいただくようお願いします。

- 集合・解散に係る事項（時間・場所等）、および持ち物は、必ず子供と一緒に確認してください
- 集合・解散場所が定められている場合、原則として途中の合流や途中下車は認めません
- 移動の際は、IC カード（パスモもしくはスイカ）を利用します。残金の確認をお願いします
- 引率スタッフの移動や宿泊、その他活動に係る費用は、後日按分して預かり金より精算します
- 外出時のお弁当には、おにぎりやサンドイッチなどの食べやすい

ものをご用意ください。弁当が不要なことがありますのでその場合は事前に連絡します。

◆通学手段について

公共交通機関をご利用ください。
自転車通等での通学は、事故等の可能性を鑑み、ご遠慮いただいております。やむなく自転車等にて通学する場合には、各ご家庭での責任にて行うことをお願いいたします。車での送迎も同様です。

※登下校中に関しては、スクール保険適応外となります
※駐車場、駐輪場のご用意はありませんので、ご家庭の責任に置いて行うことをお願いいたします。

2. 学びの準備品

子どもたちが自己管理できるよう持ち物にはすべてご記名ください。消耗品に関しては、お子さんと一緒に確認を行い、適宜補充してくださるようお願いします。

◆ご家庭にてご用意いただくもの

- □ 通学用バッグ(A4 ファイルが入るサイズの背負えるタイプ)
  ※校外学習や合宿等で使用するためバックパックが便利です。
- □ お弁当箱
- □ 水筒
- □ 筆箱
- □ 鉛筆（B もしくは２B）数本…普段用
- □ 赤鉛筆
- □ 消しゴム
- □ 色鉛筆（12 色）
- □ のり（スティックタイプ）
- □ はさみ
- □ 定規（筆箱に入るサイズ）
- □ 三角定規…2 年生以上
- □ 分度器…3 年生以上
- □ コンパス…3 年生以上
- □ 道具袋…文具収納・持運び用
  ※透明もしくは半透明で中身が見えるジッパー付きソフトタイプ推奨
- □ 手帳袋（手帳収納･持運び用）…キャンプのしおりやスクールからの書類を収納し、スクールと家庭を行き来するものとして常に通学用カバンに入れておきます。
  ※透明もしくは半透明で中身が見えるジッパー付きソフトタイプ推奨
- □ 体育用装備…運動に適した服装、運動靴
  ※必要に応じて着替えを用意してください。
- □ なわとび（身長にあったもの）
- □ 水泳具一式（水着、タオル、水泳帽、ゴーグル）
- □ 雑巾２枚（掃除用）
- □ 書道セット

教材に関しては、学年やクラス、活動が行われる時期に合わせてご用意いただきます。スクールにてまとめて購入できる場合もありますので、詳細はご連絡させていただきます。

この他の教材やノート類に関しては、学年やクラスに応じてご用意いただく場合とスクールで購入する場合があります。スクールが購入する場合は、後日預かり金より精算させていただきます。ご家庭にてご用意いただく場合は、改めてご案内しますので、ご不明の際はご相談ください。

3. スクールとの連絡方法

週末をはさんだり、当日朝の連絡など時間の猶予がない場合は、確実に伝えるため、直接電話もしくはライン等で直接スタッフにお伝えください。

※教員スタッフや生徒への授業中の電話の取り次ぎは原則としていたしません。（緊急の場合を除く）
※スタッフに相談等がある場合は、授業時間を除く時間帯にご連絡をいただくかメール等にて面談のアポイントを取るようにお願いします。

4. 情報共有の仕組み

スクールからの情報発信としては、以下の方法を採用し、保護者および一般の方々に向けた情報共有をはかっています。各種登録をお願いします。

《ウェブサイト及び SNS》一般公開
A. ホームページ
B. Instagram
C. Facebook ページ
D. Facebook Online サロン

《在校生用連絡ツール》
E. Storypark
F. Storypark Community Post 通知
G. 公式ライン（帰宅・連絡用）
H. スタッフ＆保護者メーリングリスト
I. 緊急連絡メーリングリスト
J. Google カレンダー（スクールスケジュール）

A. ホームページ

https://free-is.org/grade/

公式ホームページとして、一般に公開できる情報の発信と共有の場として、スクール概要から学びの内容、日々の活動、子どもたちの様子を伝えています。スクールの全体像をお伝えするサイトとなっています。

B. Instagram

https://instagram.com/free_international_school

Facebook（フェイスブック）、Instagram（インスタグラム）を利用し、日々子どもの活動やスクール行事について情報発信しています。広報活動を目的とした位置づけですが、学びの様子についても公開されますので、ぜひブックマークに追加してください。
公開イベントの予定を含め一般向けのアップデートされた情報発信の場となっています。

C. Facebook ページ

https://facebook.com/FreeInternationalSchool

D. Facebook Online サロン

https://bit.ly/3Jhqwif
https://www.facebook.com/groups/162084342504959

FIS をご支援いただいている方限定の無料オンラインサロンです。サロン会員様向けのご案内なども行っています。こちら、スクール生は、みなさまご参加いただけます。

E. Storypark

http://storypark.jp

学びのストーリーを写真や映像、コメントと共に学校と各家庭とタイムリーにシェアしています。キャンプ等イベントでの様子もできるだけダイジェスト化して共有します。

F. Storypark Community Post 通知

イベントや災害時等におけるスクールからの緊急情報を最優先で告知します。ＳＰからプッシュ通知が来ないが、スクールから何か情報が流れていないか気になった場合はＳＰサイトをご確認ください。
※緊急時の Announcement 通知メールの配信やプッシュ通知は、ご家庭にて適宜設定してください。

• **PC ブラウザ**：トップページより（ログイン後）、メインメニューの「Community」を選んでください。
• **スマートフォンアプリ**：「Community」もしくは「Conversation」よりご覧いただけます。

G. 公式ライン（帰宅・連絡用）

子供たちがスクールから退出するときの連絡や郊外活動からの帰宅時間の一斉連絡に使用します。登録は右記の QR コードからお願いします。

H. スタッフ & 保護者メーリングリスト

fis-grade @ free-is.org

保護者及びスタッフ間のメーリングリストです。スクールの内部に関する報告及び情報共有のために使用します。
※添付ファイルを含むメールをお送りすることもありますので、ご家庭で少なくとも 1 つは、添付ファイルを見ることが出来るメールアドレスをもち、メールは出来るだけ定期的に確認してください。
※必要に応じて、複数のメールアドレスを登録することも可能です。

また、保護者間の情報交換の場としてもご利用いただけます。スタッフからの連絡だけでなく、保護者の方も皆でシェアしたいことは、どんどんこの ML にメッセージを上げてください。
※メーリングリストより配信されたメールに「返信」すると、メールの送信者ではなく、メーリングリスト自体へ返信されます。つまり、登録者全員へメールが配信されますので、内容によりプライベートな事項に係る場合の返信時は注意が必要です。

I. 緊急連絡メーリングリスト

fis-all @ free-is.org

緊急時に、Storypark の補完として利用することがあります。万一の際に備えて、この ML にも緊急連絡先の登録をお願いします。
※アドレス変更の際は、必ずスクール宛にご連絡ください。

J. Google カレンダー（スクールスケジュール）

スクールのスケジュールは、Google カレンダーで公開しています。該当スケジュールを公開いたしますので、Google アカウントをご連絡ください。

子供の予定については、各自スケジュールを管理できるように、スタッフから直接子どもに伝えるようにしています。ご家庭においては、あくまで子供たちが自分の予定を管理・準備等することを目標とし、そのための手引きやサポートをしてくださるようお願いします。

5. 欠席・遅刻・早退について

• 当日の欠席・遅刻は 8 時までに、早退も早めにご連絡ください
• 休日前や当日の連絡になる場合は、電話、もしくはラインで直接スタッフにお伝えください
• 感染症の病気の疑いがある場合には、スクールに報告し医師の診断を受けてください
• 他の生徒への感染の可能性がある場合は、通学再開に際しては医師の指示に従ってください

◆指導要録上の出席扱いについて
文部科学省より各都道府県教育委員会へ宛てた下記通知をご参照ください。「不登校児童生徒への支援の在り方について」令和元年 10 月 25 日：文部科学省

6. 子供の健康に関する方針

スクールで子供の具合がよくない場合、様子によって、保護者もしくはそれに代わる方に迎えに来ていただくことがあります。
※子供の病気の症状が重い場合や、感染症の疑いがある場合は、ただちにスクールへお知らせください。そして医師の診断に従い、完治するまで登校は控えてください。スクールにて予防的措置を施すことができない病気の蔓延を食い止めることにつながります。
※服用している薬がある、また、副作用を伴うことがある場合や、スクールにおける活動への参加が制限される場合は、その旨スクールへお知らせください。

◆健康診断について

在籍する小学校に相談の上、学校指定の病院にて受診することをお勧めしています。スクールとして健康診断は行わず、個人的に受診していただきます。

◆薬の預かりについて

原則として預かることはしません。基本的に、子どもが自分で管理できる範囲での対応をお願いします。

◆学校感染症に伴う出席停止について

学校保健法により、学校感染症にかかった場合は「出席停止」となり、欠席扱いになりません。ただし、病気が治り通学可能になった場合には、病名および出席停止期間の記載されている通学許可書（治癒診断書）もしくは医師の診断書を提出してください。

◆学校感染症罹患による出席停止

学校感染症と診断された場合は、医師の通学許可が出るまで登校することができません。治癒証明書もしくは医師の診断書（期間を記載してもらうこと）の提出があれば、発病から通学許可が出るまでの期間を公欠の扱いとします。
※参考：「学校感染症と出席停止の基準」

出席停止＝出席扱いとなるには医師の診断が必要で、その際は、速やかにその旨をスクールに連絡、診断名および症状・発症日をお知らせください。
出席停止解除＝通学するためには、原則として治癒証明書の提出が必要です。

◆インフルエンザについて

発症後下記２つの条件を両方満たしていると保護者が判断した場合、その翌日より通学が許可され、医師による治癒証明書の提出は不要となります。
＊その旨を事前に文書（メール含）にてスクールに連絡し認められた場合に限ります。

・解熱後２日が経過していること
・発症後５日が経過していること

【注意】発症とは発熱の症状が現れたことを指します。日数の数え方は、発熱が始まった日は含まず、翌日からを発症第１日目と考えます。

◆新型コロナウイルス感染症について

スクールの対応としては、該当時点での船橋市の方針に従うこととなります。
また、各ご家庭で感染者が出た場合、濃厚接触者に該当した場合には、お住まいの各自治体の指示に従い、状況をスクールまでご報告ください。その上で、対応を判断いたします。

◆校内でのケガ・病気について

スクール内では、ケガや事故が起こらぬようスタッフは最善の注意を払っていますが、万一起きた場合、スクールにて応急手当てを施すことがあります。また、ケガの程度や子どもの様子によっては、保護者の方に連絡をとり判断を仰ぎますが、保護者への連絡がとれない場合は、スクールの判断にて病院へ連れていくことがあります。日頃は保険証を預かることはしないため、その際の費用はスクールにて立て替えますが、その後のケアや通院に関しては、ご家庭にて判断をお願いいたします。

7. 通学定期について

民間施設に通う生徒達には、公共の交通機関が「実習用通学定期乗車券制度」を適用し学割定期券を発行してくれます。そのためには「通学証明書」を発行してもらう必要があります（要公印）。「通学証明書」の発行については、行政から通知・指導が出されていますが、最終的には学校長の裁量によりますので、詳細は各校へお問い合わせください。

8. スクール発行の書類および家庭からの提出書類

◆スクール発行の書類について

「出席証明書」
小学校事情に合わせて出席証明書の提出が必要な場合は対応いたします。提出時期に合わせて都度スクールに要請してください。その他の対応が必要な場合はご相談ください。

※発行手数料について
小学校提出用や中学受験用の報告書作成など、目的を問わず、発行には以下の費用がかかります。在校生も卒業生も同様の扱いとなります。
[PDF/ ハードコピー問わず]　300 円／ 1 通

◆家庭からの提出書類について

「個人情報変更届」
入学時に提出した「入学申込書」記載の個人情報が変更になった場合、まずはメール等にてご連絡いただきます。必要に応じて「変更届」を提出していただきます。

◆その他

その他必要に応じて、書類を提出していただくことがあります。

9. 個人情報の取り扱いについて

Free+ International School が取得する個人情報について、以下の通り取扱い致します。

A. 個人情報の範囲

個人情報とは、氏名、生年月日、住所、電話番号、授業中の写真、個人の作品など、本人及び保護者に帰属し、また本人を特定できるすべての情報を指します。

B. 個人情報の利用目的

①写真について：学校紹介、授業紹介、オープンハウス（体験授業）の開催の告知のため
②写真以外の情報：認可外保育所運営、生徒管理、授業準備、アレルギーなどの本人の健康、 安全面を職員が情報を把握するため。季節ごとに開催されるプログラムのご案内等

C. インターネット上への情報公開ついて

授業中に撮影した写真、参加者の発言等は、インターネット上（関連ホームページ、Facebook 等）に公開する可能性がございます。但し、個人の名前等を公開することはなく「②個人情報の利用目的」に準じます。

D. 緊急時の必要者への個人情報提供について

次の場合はご本人の同意なく必要者に個人情報を提供する場合がございます。

⑴ 法令に基づく場合
⑵ 人の生命、身体または財産の保護のために必要がある場合であって、本人の同意を得られないとき
⑶ 子供の健全な育成の向上のために必要がある場合。本人の同意が

得られないとき
⑷ 国の機関、地方公共団体またはその委託を受けた団体が法令の定める事務を遂行するにあたり情報開示を求められた場合

E. 個人情報の開示

本校へ提供された個人情報は開示などの請求が行えます。

10. 災害発生時の対応

◆災害発生時の基本ポリシー

スクール内・外に関わらず、スクールのスタッフと子どもたちが一緒にいる場合には、スタッフの指示によって身の安全を確保することとしますが、通学時や、何らかの事情がある場合には、自分だけで判断しなくてはならないこともあり得ます。

子ども自ら判断をしなくてはならない時の基本ポリシーは、「自分の身の安全を確保すること」とします。また、スクールとして判断をする際の基本ポリシーは、「子どもたちの身の安全を確保すること」とします。

◆災害発生時（災害発生後）の意思決定

災害発生時は、原則としてスクールのスタッフの指示に従い行動をします。なお緊急時の意思決定は、以下の優先順位で行うものとします。また災害発生後の対応策の意思決定も同様とします。

- 第一意思決定者：理事長
- 第二意思決定者：現場責任者

第一意思決定者が不在であったり連絡が取れない場合、第二意思決定者は第一意思決定者に確認することなく、最終の意思決定をすることができるものとします。また、上記の意思決定者がともに不在かつ連絡が取れない場合には、基本ポリシーにのっとって、現場にいるスタッフ全員の合議によって意思決定を行うものとします。

◆災害発生時の連絡体制

基本的に以下の優先順位に従って有効な方法を選択し、保護者との連絡を取るものとします。

① Storypark 上の情報告知＋通知メール
（Community Post/Announcement）
② 公式ライン
③ 緊急連絡メーリングリスト
（fis-all @ free-is.org）：Storypark の補完
④ 電話（自宅／携帯）

◆災害発生時の行動

地震等により交通機関が動かなくなった場合には、保護者に対して子どもを安全に引き渡すまでの間は以下の基準によって行動するものとします。

①スクールにいる場合：そのままスクール待機
②スクールの徒歩圏内にいる場合：スクールに戻って待機
③自宅あるいは、最寄り駅近くにいる場合：自宅に自力で戻る
④通学途中の駅で止まった場合：駅で待機
⑤校外学習の場合：安全な場所で待機
※最終的には、基本ポリシーに基づいて判断して行動する力が求められます

《災害時の避難場所》
- 第一避難場所：天沼弁天公園
- 第二避難場所：船橋中学校

11. 利用者向け保険

当施設では、以下のとおり保険に加入しています。
- 保険の種類：賠償責任保険
- 保険事故（内容）
- 保険金額　賠償責任 100,000 千円 /1 名
  （限度額）200,000 千円 /1 事故

また、個人賠償責任保険、交通事故障害保険等、任意で加入することも可能です。ご加入をご検討の方は、別途お申し出ください。

12. スクール運営法人

特定非営利活動法人（NPO）Free+ International School
※会員制度については別紙「NPO 会員のご案内」をご覧ください

Free+ International School 事務局
代表：青沼
【メール】contact@free-is.org
【ホームページ】https://free-is.org/grade/
【TEL】050-5586-2086
【住所】千葉県船橋市本町 6-5-8
ステイタス YUHARA102

FREE+ INTERNAT